

第4学年 国語科学習指導案

1 単元名 場面をくらべて読もう「一つの花」

2 指導の考え方

— 子どもの実態 —

本学級の子ども達は、1学期単元「白いぼうし」の学習で、まずあらすじをまとめるたからを活用してあらすじを書きまとめている。そして、松井さんの性格や気持ちを場面ごとに読み確かめてきた。その際、松井さんの気持ちが表れている言葉に着目して、にたことばとくらべて読んだり、場面と場面をつないで読んだりする読み方を活用してきた。また、ダッシュや指示語を読む読み方を習得して読むことができてきている。

しかし、松井さんの気持ちを読み取るための中心文を探すことや疑問を生み出すことが苦手であったり、話し合った後に書きまとめることが苦手な子どもが多かったりすることが課題である。

— 教材の特質 —

本教材は、主人公ゆみ子の戦中と戦後を通して、読者である児童と同年代の人物の戦争体験に迫ることができる物語である。また、叙述に即して読むことで、父母のゆみ子に対する思いを想像することができる。文章構成の特色としては、3つの場面で構成され、前半の2場面はお父さんとお母さんのゆみ子に対する思いが中心に書かれ、最後の場面は、ゆみ子の十年後が第三者の視点で書かれている。叙述の特色として、まず、お父さんがゆみ子に渡した一輪のコスモスの花が「一つの花」と表され題名となっていることから、「一つ」という言葉に作者が特別な意味をこめていると考えられる。また、ダッシュや句点、指示語を読む読み方や言葉をはずして読む読み方、比喩を読む読み方を習得し、場面と場面をつないで読む読み方を活用して、お父さんの気持ちを読み確かめたり、前半と後半の場面をくらべて人物の変容を読む読み方を習得することができる。

このような教材の特質から、子を思う親の心情についての見方・考え方を広げたり深めたりすることができる教材だと考えられる。

— 指導にあたって —

本単元の指導にあたっては、まず、題名「一つの花」がものを表す題であることから、主人公とのつながりがあることを想起させ冒頭を読ませる。冒頭には「一つの花」と書かれていないことを確認した後、人物、時、場所を読む読み方を活用し、物語の設定と方向性をとらえさせ、「ゆみ子がこれからどうなるお話だろう。一つの花はゆみ子にとってどんなものなのだろう。」という読み通しの目をつくる。読み通しの目の答えをまとめる際には、これまでに習得しているあらすじのたからを活用して主人公ゆみ子の行為や姿からまとめさせる。学習計画では、題名が「一つの花」なのはなぜか。なぜお父さんは一つの花を渡したのかという子どもたちの疑問を生かしながら、主人公のゆみ子ではなく、お父さんの気持ちをくわしく読み確かめていくことを確認し、各場面の中心文を設定する。読み確かめでは、中心文から書きこみの視点をつくり、自分の考えを書き込んだ後全体で話し合っていく。それぞれの場面のお父さんの気持ちを、場面と場面をつないで読む読み方を活用して読み確かめさせる。その際、指示語や句読点、ダッシュを読む読み方、ことばをはずして読む読み方、にたことばとくらべて読む読み方、比喩を読む読み方を習得、活用させる。最後の場面は、十年後の場面と前の場面をくらべてお父さんの願いがどうなったかを読み確かめ、場面をくらべて読む読み方を習得させる。読みのまとめでは、読み確かめたことと読み方をふり返り、題名の意味を考え、子を思う親の心情についての見方・考え方を広げたり深めたりできるようにする。

3 目標

- 戦争に行かなければならないお父さんが一つの花を通して伝えたい思いや願い、それを受けとめて暮らしてきたお母さんと幸せに暮らすゆみ子の様子を読み取り、題名「一つの花」にこめられた作者の思いを考えることができるようにする。
- 場面をくらべて読む、句読点を読む読み方を習得し、人物、時、場所を読む、場面と場面をつないで読む、指示語を読む、ダッシュを読む、ことばをはずして読む読み方を活用できるようにする。
- 親の子に対する思いについての見方・考え方を広げたり深めたりすることができるようにする。

4 学習計画（全13時間）

次時	主な学習活動	指導上の留意点
読み通しの目	<p>1 題名から分かること、思ったこと、読んでみたいことを話し合う。</p> <p>2 冒頭を読んで、題名とのつながりや人物・時・場所を話し合い、物語の方向性をつかむ。</p> <p>3 題名と冒頭から読み通しの目をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">— 読み通しの目 —</p> <p>①お母さんの口ぐせを覚えてしまったゆみ子がこれからどうなるなか。</p> <p>②一つの花には、どんな意味があるのか。（ゆみ子と一つの花は関係してるのか。）</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「一つの花」の「一つ」からどうして「一輪」や「一束」という表現ではないのか疑問を持たせ、「一つ」に着目させる。 ○ ものの名前が題名になっていることから、既習学習を想起させ、「一つの花」が物語の中で大事な役割を果たしているだろうと予想させる。 ○ 冒頭には「一つの花」は出てこないが、ゆみ子が最初に覚えた「一つだけちょうだい」の「一つ」に関係がありそうなことに気づかせる。 ○ 戦争がはげしかったころ、毎日のように空襲がある町での話であること、主人公ゆみ子がどのように描かれているかをとらえさせる。 ○ お母さんがそんな主人公ゆみ子のことをどんなふうに思っていたのか考えさせる。
読み通しの目の答え	<p>1 全文を読む。</p> <p>(1) 意味が分からない言葉を辞書で調べる。</p> <p>(2) すらすら読めるように練習をする。</p> <p>2 読み通しの目の答えを書きまとめる。</p> <p>(1) 場面をとらえ、読み通しの目の答えを80字程度で書きまとめる。</p> <p>(2) 書いた答えを見直し、修正する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">— 予想される読み通しの目①の答え —</p> <p>一つだけちょうだいを覚えたゆみ子が、お父さんが戦争に行くとき一つだけと泣きだしたが、お父さんから一つの花をもらい喜んだ。十年後花に包まれ小さなお母さんになった。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 口の開け方や声の大きさ、姿勢に気を付け、正しく読むことができるように、評価しながら練習させる。 ○ 1行空きに着目させ、大きく3つの場面から構成され、最後の1行空きには十年の年月があることをとらえさせる。 ○ 主人公はゆみ子であることを確認し、あらすじをまとめるために必要な場面を考えさせる。
学習計画	<p>1 くわしく読み確かめていく学習計画を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">— 読み確かめること —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めちゃくちゃに高い高いするお父さんの気持ち ・駅のホームで小さくばんざいをしたり歌を歌ったりするお父さんの気持ち ・ゆみ子に一つの花を渡し、一つの花を見つめながら汽車にのって行ってしまおうお父さんの気持ち ・十年後のゆみ子の様子からお父さんの気持ちがどうなったといえるのか </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読み通しの目②の答えを出し合うと、ばらついていいるがお父さんという言葉がたくさん出てきていることから、お父さんの様子や気持ちを読み確かめていけばよいことを確認する。 ○ お父さんの様子や気持ちが分かる文をグループごとに発表させ、各場面の中心文を決めていく。
	<p>1 ゆみ子をめちゃくちゃに高い高いするお父さんの気持ちについて自分の考えを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お父さんはどんなことを心配しているのか。 ・「決まって」「めちゃくちゃに」高い高いをしたのはなぜか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中心文から子どもとやりとりしながら考える視点をつくり出す。 ○ 机間指導を行い、考えを書いている子により深める視点を与えたり書けない子には助言したりする。

読み 確 か め ①	7 / 13 ① 1 ゆみ子をめちゃくちゃに高い高いするお父さんの気持ちを話し合う。 (1) お父さんはどんなことを心配しているのか話し合う。 (2) 「決まって」と「めちゃくちゃに」の意味を確認し、どうしてそのように高い高いをしたのか話し合う。 2 読み確かめたことと読み方を書きまとめる。	○ 「いったい～」のお父さんの心配は何かを考えさせ、食べ物を十分に食べることができないゆみ子が健やかに大きくなっていけるか心配していることを読み取らせる。 ○ 「決まって」とは1回ではなくいつもしているということを確認する。「めちゃくちゃに」は動作化させ、より高く大きくしていることをとらえさせる。 ○ ゆみ子をめちゃくちゃに高い高いするのは、お父さんの心配や不安、喜びをあげたいという思いがあることを前の会話文とつないで読み取らせる。 ○ 読み確かめたことが分かりやすいように構造的な板書をする。また読み方カードを板書に位置づけておく。
読み 確 か め ②	8 / 13 ② 1 中心文から書き込みの視点をつくる。 ・ ゆみ子とお母さんのほかに見送りのないお父さん…どんなお父さんか ・ 戦争に行かなければならない日の文からお父さんはどんな気持ちか。 ・ 小さくばんざいをしていたり、歌を歌っていたり…どんな気持ちか。(まわりの人のばんざいや軍歌と比べて)	○ 中心文のどの言葉に書き込みをすればお父さんの気持ちがくわしく分かるかを問いかけ、子どもとやりとりしながら書き込みの視点をつくる。 ○ 「あまりじょうぶでないゆみ子のお父さんも戦争に行かなければならない日」とつないで、どんなお父さんか考えさせる。 ○ 「そんなばんざいや～」の指す言葉を確認させ、まわりの人のばんざいや軍歌とお父さんがしたこととのちがいを考えさせる。
読み 確 か め ③	9 / 13 ③ 1 書き込みをもとにお父さんの気持ちを話し合う。 (1) 「ゆみ子とお母さんのほかに見送りのないお父さん」とはどんなお父さんか。 (2) 「小さくばんざいをしていたり」のお父さんはどんな気持ちか。 (3) 「歌を歌っていたり」のお父さんはどんな気持ちか。 2 読み確かめたことと読み方を書きまとめる。	○ 自分の書き込みを確認させ、話し合うめあてをもたせる。 ○ 「あまりじょうぶでない～」とつないで、体が弱く病気がちで、家族を残していくことへの不安があるながらも行かなければならないお父さんであること、にぎやかなまわりの様子に対して3人だけで駅に来ているという様子をとらえさせる。 ○ 「ゆみ子をだいて」に着目させ、お父さんがしているばんざいは、まわりの人のばんざいとはちがって、ゆみ子をあやすためにしていることに気付かせる。 ○ 「軍歌」とは書いていないことに気付かせ、お父さんはゆみ子の好きな歌などを歌ってゆみ子を喜ばせるためにしていることに気付かせる。 ○ 「いたり」の「い」があることから、お父さんとお母さんとゆみ子の家族3人が、別れの前にプラットホームに「いる」ことを表していることに気付かせる。
読み 確 か め ③	10 / 13 ③ 1 中心文から書き込みの視点をつくる。 ・ 「一つだけのお花～」…どんな願いがあるのか。 ・ 一つの花を見つめながら…なぜゆみ子やお母さんの顔ではなく、花を見つめながら行ってしまったのか。	○ 中心文のどの言葉に書き込みをすればお父さんの気持ちがくわしく分かるかを問いかけ、子どもとやりとりしながら書き込みの視点をつくる。

11 / 13 (本時)	<p>1 書き込みをもとにお父さんの気持ちを話し合う。</p> <p>(1) 「一つだけのお花，大事にするんだよー。」…どんな願いがあるのか。</p> <p>(2) 「一つの花を見つめながらー。」…どうしてゆみ子やお母さんではなく，一つの花を見つめていってしまったのか。</p> <p>2 読み確かめたことと読み方を書きまとめる。</p>	<p>○ 自分の書き込みを確認させ，話し合うめあてをもたせる。</p> <p>○ 「いよいよ汽車が入ってくるというとき」から，3人に残された時間がわずかであるという状況をとらえ，また，「ゆみ子はとうとう泣きだしてしまいました。」から，お父さんが まって にゆみ子に最後の言葉として何かを伝えようとしていることをとらえさせる。</p> <p>○ この「一つの花」は，ただの「一輪の コスモスの花」ではなく，お父さんがゆみ子にたった一つの命を大事にしてほしいという願いをこめた花であり，ゆみ子が喜んでにぎっている花であることから，お父さんが花を見つめるのは，その願いをこめているという読みができることに気付かせる。</p>
読み 確 か め 12 / 13	<p>1 お父さんの願いがどうなったか分かりそうな文を見つけ，書き込みの視点をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コスモスの花でいっ いに～ ・ 「母さん～」 ・ 小さなお母さんに～ <p>2 書き込みをする。</p> <p>3 書き込みをもとに話し合う。</p> <p>4 読み確かめたことと読み方を書きまとめる。</p>	<p>○ どの言葉に書き込みをすればお父さんの気持ちがどうなったかが分かるかを問いかけ，子どもとやりとりしながら書き込みの視点をつくる。</p> <p>○ 冒頭の戦争中の様子や「一つだけちょうだい」と言っていたゆみ子の姿と比べさせ，戦争が わりゆみ子がお母さんの手伝いでお を作るまでに成 していることに気付かせる。</p>
読み の ま と め 13 / 13	<p>1 読み確かめてきたお父さんの気持ちと読み方をふり返る。</p> <p>2 題名「一つの花」の意味を話し合う。</p> <p>3 読み確かめたことについて自分の 想を手 にまとめ，発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分（読み手）からゆみ子へ ・ のお父さんからゆみ子へ ・ お母さんから のお父さんへ 	<p>○ 既習 示物を指しながら，読み確かめたお父さんの気持ちをふり返らせる。</p> <p>○ 「一つの花」はお父さんのゆみ子に対する願いがこめられた花であること，その願いをお母さんが受けとめて十年間ゆみ子を て，ゆみ子がお父さんの願い通りに っていることをとらえさせる。</p> <p>○ 3 ー の書き方から子どもが書きやすいものを作るようにする。</p>

6 本時の目標

- 忘れられても く咲いているコスモスのようにゆみ子も命を大事にして く生き いてほしいという思いをこめて、一輪のコスモスの花を渡し、喜んだゆみ子を見て安心して何も言わずに戦争に行ってしまうお父さんの気持ちを読み確かめることができるようにする。
- お父さんの気持ちを読むために、「句読点の読み方」を しく習得し、「場面と場面をつなぐ読み方」を活用することができるようにする。

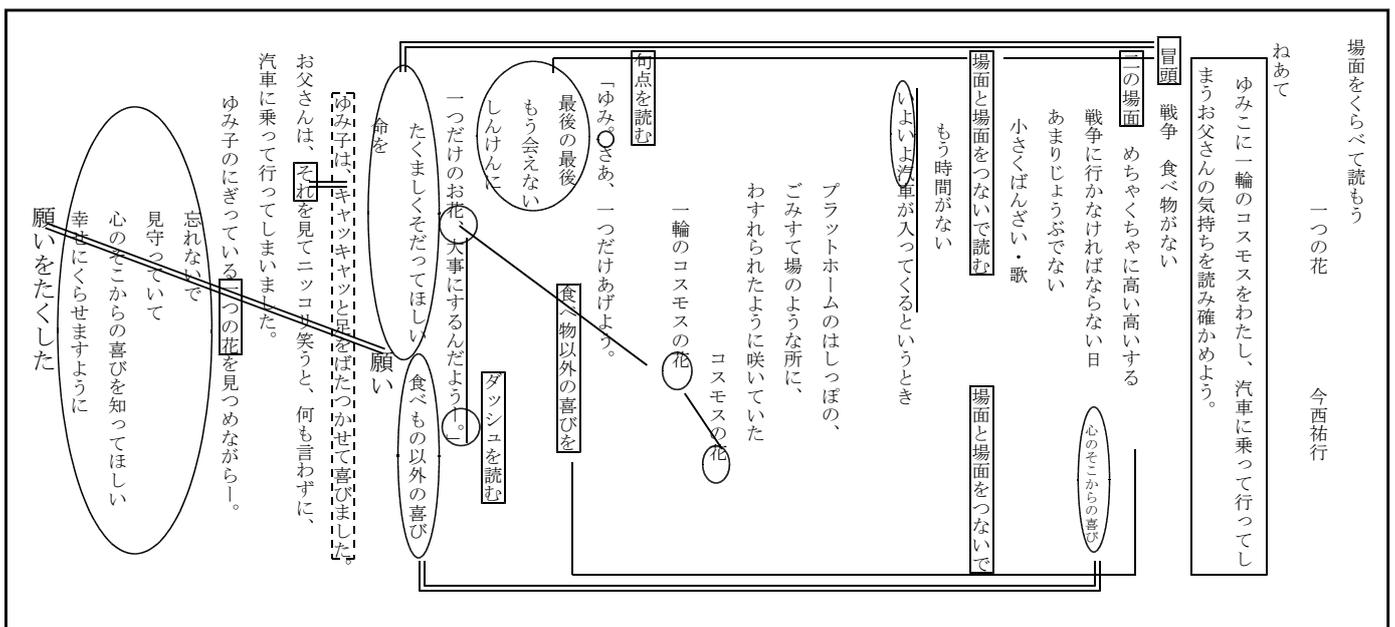
7 本時指導の考え方

前時までには子どもたちは、ゆみ子をめちゃくちゃに高い高いするお父さんの気持ちや、戦争に行く日、プラットホームのはしっぽでゆみ子をだいて小さくばんざいをしていたり歌を歌っていたりしていたお父さんの気持ちを読み取ってきた。本時は、いよいよ汽車が入ってくるというとき、「一つだけちょうだい」と泣き出したゆみ子に、お父さんが一輪のコスモスの花を渡し、汽車に乗って行ってしまふ場面の学習である。子どもたちは、前時に次の2つの視点で書き込みをしている。①「一つだけのお花、大事にするんだよう。」の文の中にお父さんのどんな願いがあるのか。②なぜ、ゆみ子やお母さんの顔ではなく、「一つの花」を見つめながら行ってしまったのか。本時はこの2点の書き込みをもとに、お父さんの気持ちを話し合っていく。

まず、「ゆみ。」の び方と句点から、別れの時が迫り、ゆみ子に最後の言葉として何か伝えようとしているお父さんの な気持ちを読み取らせる。次に、「一つだけのお花」は「プラットホームのはしっぽの～コスモスの花」であることを確認し、お父さんが願っていることは何か発表させる。花そのものを大事にしてほしいという考えをもっている子どもには、実物を見せてすぐに れてしまうことに気付かせる。「ごみすてばのような所に忘れられたようにさいている」から、人が えていないのに く花を咲かせるコスモスの花を ーさせ、このコスモスのように苦しい中でも命を大事にたくましく っしてほしいというお父さんの願いを読み取らせる。そして、その花を受け取ったゆみ子がきゃっきゃと足をばたつかせて喜んだのを見てにっこり笑うと何も言わずに行ってしまうお父さんの気持ちを読み取らせる。「喜び」という言葉に着目させ、2の場面の会話文中の「喜び」とつないで、食べ物以外でお父さんがうれしかったことを読み取らせる。最後に、「一つの花」を見つめながら行ってしまったのはなぜか話し合う。「一輪のコスモスの花」「一つだけのお花」という言い方と比べ、題名に「一つの花」と書かれていることから、ここでお父さんが見つめていたのは、命を大事にしてほしいという願いや花を しいと思う心(心のそこからの喜び)を大事にしてほしいという願いがこもった、一つしかない、たった「一つの花」であることに気付かせる。

本時のまとめでは、板書を指しながら読み確かめたことと読み方を各自声に出してまとめさせる。その後代表児に発表させ、自分の学習プリ トに読み確かめたことと読み方を書きまとめさせる。

8 板書計画



9 本時の展開

主な学習活動	指導上の留意点
<p>1 前時学習を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めあて</p> <p>ゆみ子に一輪のコスモスをわたし、汽車に乗って行ってしまってお父さんの気持ちを讀みたしかめよう。</p> </div> <p>2 書き込みをもとに話し合う。</p> <p>(1) 「一つだけのお花，大事にするんだよう。」とお父さんはどんな願いをもっていたのか話し合う。</p> <p>(2) なぜ，ゆみ子やお母さんの顔ではなく，「一つの花」を見つめながら行ってしまったのか話し合う。</p> <p>3 本時の学習のまとめをする。</p> <p>(1) 話し合ったことで，深まったことを自分のことばでまとめ，発表する。</p> <p>(2) 今日 った読み方のたからを振り返る。</p>	<p>○ 前時に書いた自分の書き込みをもとに話し合っていくことを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>活用 場面と場面をつないで読む読み方を使って，お父さんの命や喜びを大事にしてほしいという願いを讀み取る。</p> </div> <p>○ 「プラットフォームのはしっぽの～コスモスの花」から，人がてていないのに花を咲かせるコスモスの，さびしいじの中にも命のさ，たくましさがあることをとらえさせる。このことから，お父さんが伝えたかったのは，ゆみ子に苦しい中でも命を大事にしてほしいという願いがあったことや食べ物以外の心のそこからの喜びをあげたいという願いを讀み取らせる。</p> <p>○ 「いよいよ汽車が入ってくるというとき」から，3人に残された時間がわずかであるという状況をとらえ，「とうとう泣きだしてしまいました」から，お父さんがまってにゆみ子に最後の言葉として何かを伝えようとしていることをとらえさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>習得 句読点を讀む読み方を使って，お父さんのゆみ子に対するな気持ちや最後の最後だという気持ちを讀み取る。</p> </div> <p>○ この「一つの花」は，ただの「一輪のコスモスの花」ではなく，お父さんがゆみ子にたった一つの命を大事にしてほしいという願いをこめた花であり，ゆみ子が喜んでにぎっている花であることから，お父さんが花を見つめるのは，その願いをこめけているという読みができることに気付かせる。</p> <p>○ 深まった読みを自分でまとめて言う練習を行い，代表児童に発表させる。</p> <p>○ 「句点を讀む」「ダッシュを讀む」「指示語を讀む」「場面と場面をつないで読む」の読み方を活用したことを読み方カードを板書に位置づけ確認する。</p>